

育苗ハウス内の温度変化、特に、高温に注意！

きめ細かな育苗管理で健苗を育てましょう！

山形おいしさ際立つ！米づくりプロジェクト本部

【気象の状況】

気象庁の2週間気温予報(4月23日発表)では、4月23日から28日までは気温の変動が大きく、29日からは平年並の見込みです。

◎当面の技術対策

きめ細かな育苗管理で、充実した苗を作り、移植後の生育量を確保することが重要です。軟弱徒長苗や老化苗は、移植後の活着が遅れ、生育量が不足し、収量と品質・食味の低下につながります。

(1) 育苗ハウス内の温度変化に注意！

- 無加温出芽で出芽期に気温が低い場合は苗床の保温に努め、出芽が揃ったら被覆資材を除去します。但し、出芽長を伸ばすほど丈の長い苗となるため、伸ばし過ぎに注意しましょう。
- 朝の気温が低くても、日中、晴れると育苗ハウス内の温度は急激に高まります。高温による苗ヤケや苗の伸びすぎに、特に注意が必要です。ハウスの開閉、換気などのきめ細かな温度管理で、茎が太い充実した苗を作りましょう。
- 緑化期までは遮光資材などを利用しますが、硬化期以降は、光を十分に当てながら、適切な温度管理と水管理に努め、苗の伸びすぎに注意しましょう。

生育ステージごとの温度管理の目安

生育ステージ		日中の温度	夜間の温度
出芽期	加温	30℃～32℃	
	無加温	30℃～32℃	10℃以上
緑化期		25℃～30℃	10℃以上
硬化期		20℃～25℃	8℃以上

(2) 根張りを良くする水管理

かん水は床土の乾き具合や苗の水滴の付き具合を見て判断し、必要な場合は、午前中の早い時間にたっぷりと行いましょう。なお、夕方や夜間のかん水は、床土の温度を下げ、根張りが悪くなるので避けましょう。

(3) 田植えは天気の良い日に

田植えは、天気予報を確認し、風が弱く温暖な日を選んで適期に行いましょう。低温や強風の日の田植えは、活着や初期生育が劣るので避けましょう。

STOP!農作業事故 農作業事故防止運動春季強化期間(4/10～6/10)